

ここには卒業論文のタイトルを入れます。
一文字でも間違えたら受理されません。

3 [xx 研究室]

75*****姓 名

4 吾輩は猫である。名前はまだ無い。

5 どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いて
6 いた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞く
7 とそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々
8 を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐い
9 とも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感
10 じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間という
11 ものの見始であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって
12 装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片
13 輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうして
14 その穴の中から時々ぷうぷうと煙を吹く。どうも咽せぼくて実に弱った。これが人間の飲む
15 煙草というものである事はようやくこの頃知った。

16 図1は虎、図2も虎。

17 この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で
18 運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くな
19 る。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶し
20 ているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

21 ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋も見えぬ。肝心の母親さ
22 え姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗に明るい。眼を明いていられぬく
23 らいだ。はてな何でも容子がおかしいと、のそのそ這い出して見ると非常に痛い。吾輩は藁
24 の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

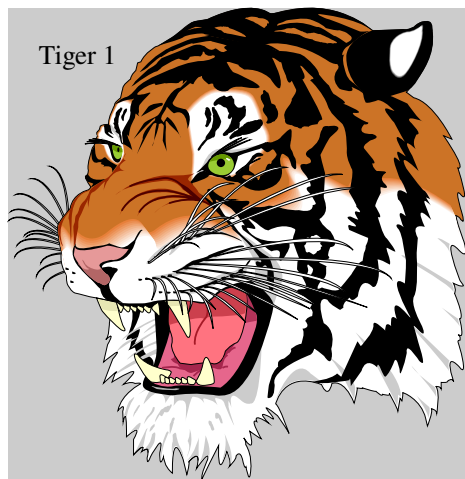


Fig. 1 Tiger 1.

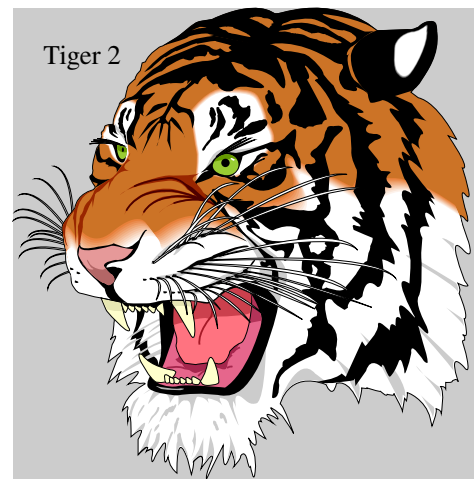


Fig. 2 Tiger 2.

Enter the title of your graduation thesis here.

If you make a mistake in even one letter, it will not be accepted.

[xx Group]

75***** First FAMILY

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Ut purus elit, vestibulum ut, placerat ac, adipiscing vitae, felis. Curabitur dictum gravida mauris. Nam arcu libero, nonummy eget, consectetur id, vulputate a, magna. Donec vehicula augue eu neque. Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Mauris ut leo. Cras viverra metus rhoncus sem. Nulla et lectus vestibulum urna fringilla ultrices. Phasellus eu tellus sit amet tortor gravida placerat. Integer sapien est, iaculis in, pretium quis, viverra ac, nunc. Praesent eget sem vel leo ultrices bibendum. Aenean faucibus. Morbi dolor nulla, malesuada eu, pulvinar at, mollis ac, nulla. Curabitur auctor semper nulla. Donec varius orci eget risus. Duis nibh mi, congue eu, accumsan eleifend, sagittis quis, diam. Duis eget orci sit amet orci dignissim rutrum.